

小林村大満舞踊団がやって来た —東日本大震災の被災地岩手県山田町からみた台湾からの支援—

原 英子

岩手県立大学盛岡短期大学部国際文化学科 准教授

【要旨】

2014年7月17日、台湾高雄の小林村の人々がつくっている大満舞踊団が東日本大震災の被災地、岩手県下閉伊郡山田町にやってきた。山田町の人々を励ますための公演である。

周知のように小林村は、2009年8月の台風8号（モーラコット）による水害（八八水害）によって甚大な被害を受けた。その後、「大満舞団」と命名された舞踊団が結成された¹。週に2回、練習を積み重ね、今回の公演に備えたという。

今回、小林村の大満舞踊団は、日本の震災被災地を訪問し、公演することによって、小林村が復興していることを示し、これまでの支援に対する感謝の意を表すのだという²。被災後、彼らは「歌と踊り」に取り組むことで「傷ついた心を癒す」ことができた。また、「そこから新たな生命の力を見出していく」きっかけをつくったのだという³。

2011年3月の東日本大震災以後、日本の被災地は台湾から多くの援助をもらってきた。本発表では、東日本大震災の被災地である岩手県山田町からみた小林村大満舞踊団のチャリティー公演について報告しながら、台湾がおこなってきた被災地支援について言及する。

キーワード：小林村、大満舞踊団、東日本大震災、岩手県下閉郡山田町、台湾からの支援

¹ 台湾光華雜誌サイト「梅の生産加工でコミュニティ復興—小林村大満舞踊団村の新たな故郷」
(http://www.sinorama.com.tw/jp/show_issue.php?id=2013110211026J.TXT%20%20%20%20%20%20%20&cur_page=5&table=5&distype=&h1=5peF44Go44Os44K444Oj44O8&h2=44Os44K444Oj44O85paH5YyW&search=&height=&type=&scope=&order=&keyword=&lstPage=&num=&year=2013&month=11) 2014年7月27日閲覧

² 台北駐日経済文化代表処>台湾週報>2014年第28週 7月8日

(<http://www.roc-taiwan.org/content.asp?mp=202&CuItem=525370>) 2014年7月27日閲覧

³ 注1と同じ

小林村大滿舞團來了 —由東日本大震災受災地岩手縣山田町看來自臺灣的支援—

原 英子

岩手縣立大學盛岡短期大學部國際文化學科 准教授

【摘要】

2014年7月17日臺灣高雄的小林村民們組成的大滿舞團，到訪東日本大地震受災地，岩手縣下閉伊郡山田町。在山田町展開了激勵人心的公演。

誠如眾所皆知地，小林村是2009年8月因受到第8號颱風（莫拉克颱風）引發水災（八八水災）的重創之地。之後，組成了「大滿舞團」¹。經由每週二次的練習至今，才有了此次的公演。

此次，小林村的大滿舞團訪問了日本地震受災地並進行公演，是為了藉此展現出小林村的復興狀況，同時也對各界的支援表達感謝之意²。災後，他們藉由投入「歌唱與舞蹈」來「療癒受傷的心靈」。此外，也同時製造出「由此找尋出新生命的力量」的契機³。

2011年3月的東日本大震災之後，日本的受災地接收到了許多來自臺灣的援助。本發表當中，是以東日本大震災的受災地岩手縣山田町之視點來看關於小林村大滿舞團的慈善公演，並以此為報告之同時提及臺灣對受災地之支援。

關鍵詞：小林村、大滿舞團、東日本大震災、岩手縣下閉郡山田町、
來自臺灣的支援

（譯者：胡家齊）

¹ 臺灣光華雜誌網站「梅の生産加工でコミュニティ復興—小林村大滿舞踊団村の新たな故郷」（http://www.sinorama.com.tw/jp/show_issue.php?id=2013110211026J.TXT%20%20%20%20%20%20%20&cur_page=5&table=5&distype=&h1=5peF44Go44Os44K444Oj44O8&h2=44Os44K444Oj44O85paH5YyW&search=&height=&type=&scope=&order=&keyword=&lstPage=&num=&year=2013&month=11）2014年7月27日閱覽

² 臺北駐日經濟文化代表處>臺灣週報>2014年第28週 7月8日

（<http://www.roc-taiwan.org/content.asp?mp=202&CuItem=525370>）2014年7月27日閱覽

³ 與注1相同

はじめに

2014年7月18日、台湾小林村出身者¹でつくられる大満舞踊団（中国語では「大満舞団」であるが、日本語表記では以下「大満舞踊団」と記す）の人たちが、2011年3月11日に起きた東日本大震災の被災地を励ますために、岩手県下閉伊郡山田町で公演をおこなった。

震災後、各国から受けた被災地支援では、台湾がアメリカに次いで多かったことは、その後の日本人の台湾意識を変えた。特にそれまで台湾を意識したことがなかった人たちに、台湾が身近な地域であることを感じさせるようになってきている。今回の大満舞踊団の公演をはじめ、山田町に多くの支援をおこなった台湾に対し、山田町でも台湾に対する意識が変化をはじめている。

1 大満舞踊団の日本の被災地訪問について

(1) 小林村の深層崩壊と日本での報道

2009年8月の台風8号（モーラコット）による水害（八八水害）によって台湾の中部・南部地域は甚大な被害を受けた。なかでも高雄県小林村（当時の行政区分）は、土石流によって村が壊滅的な被害を受け、462名の犠牲者を出した²。このときの土砂災害は、特に「深層崩壊」という名称でNHKがとりあげたことで日本中に知られるようになった³。しかしこの番組では平埔族やシラヤ族などといった文化的側面は注目されていなかった。

一方台湾では、メディアが小林村は住民の多くが「シラヤ族大武壠社群（タイヴォアン）平埔族の末裔」と報じたので、台湾ではこれが広く、一般に知られるようになったという（簡 2010：60）。台湾と日本では、一般への広まりが異なっていた。

(2) 小林村のシラヤ文化と大満舞団

簡文敏によると、小林村では被災前からシラヤ族の文化的な側面を表象する施設を備え儀礼をおこなっていた。シラヤの夜祭は毎年開催され、集落にはシラヤの始祖を祀る公廨や野外の文化展示施設である平埔文化園区がつくられ、平埔文化の再生運動が行われていた（簡 2010：59-60、林 2011：29）。

小林村の移住史を整理した清水純によると、小林村が被災した場所は、日本統治時代前後に建てられた新しい場所で集落である。住人のタイヴォアンは馬淵東一によるとシラヤ、マカタオとともにシラヤ族の下位グループで、明末から清朝、日本統治時代にかけて何回かの移住をおこない、18世紀半ばころ楠梓仙

溪の両岸に集落を形成した。小林村、甲仙村、関山村（阿里関）に多数が居住している(清水 2014 : 178-181、馬淵 1974 : 508)。

小林村の住民は、被災後、3 か所に分住している。五里埔小林（小林一村）、杉林大愛村の小愛小林、そして日光小林（小林二村）である（小川・黄・石村・松岡 2012 : 107-108、清水 2011 : 169、毎日新聞 2014/8/9）。清水によると、五里埔（小林一村）には比較的年齢が高い人たちが居住し、日光小林（小林二村）には比較的若い世代がすんでいるという。小林一村には被災前の状況を復活させようという動きがあり、清水が調査した当時、平埔博物館が建設中であった。また被災前の集落の中心にあった北極殿は儀礼により再建場所が決められた。こうした小林一村の動きに対して、「小林二村の比較的若い世代の人々は、伝統的な宗教にはどちらかというに興味がな」く、ほとんど再建場所を決める儀礼には参加していなかったという（清水 2011 : 165、169）。ところが、日光小林（小林二村）で結成された大満舞踊団では、演技に伝統的な文化を積極的に取り入れ、それを対外的に発信する活動をおこなっており、それが今回の公演となった。

(3)大満舞踊団の結成

日光小林（小林二村）では、2011 年末、大満舞踊団（大満舞団）が結成され、伝統的な踊りや歌、文化を伝える活動がはじめられた。14 歳の中学生から 65 歳まで 22 名がメンバーである⁴。彼らの出身であるタイヴォアン（大武壟）と台湾語の「大満」の音が似ているところから、「大満舞団」と名づけられた⁵。

タイヴォアンは伝統の服飾では文様が残るのみで、言語も日常的に閩南語を話し日本統治時代に限られた数の単語が採集されたに過ぎなかった（清水 2014 : 183）。そうした状態の中、高齢者の記憶から歌や踊りが再現され、今回の公演となっていた⁶。演技には浅井恵倫が 1930 年代に撮った写真や映像も効果的に使用されていた〔宮岡 2005 : 274-279〕⁷。

小林村出身者は、居住地が離れてしまったが、日光小林以外でも興味がある者が週 2 回集まって練習を続けている⁸。メンバーが集まって歌や踊りの練習に取り組むことで、「傷ついた心を癒し、そこから新たな生命の力を見出していく」ことができたという⁹。公演ではそうした経験が、震災後、今もなお仮設に住んでいる人たちもいる聴衆を前に語られた。

山田町公演での王民亮団長の話によると、大満舞踊団では結成してまもなく、東日本大震災被災地公演を目標にしたという。それは日本からの支援の恩返しの意味もあったという¹⁰。毎日新聞には震災被災地へ 55 万台湾ドル（約 190 万

円)をおくったことが書かれていた¹¹。今回の公演は大満舞踊団が日本の被災地を訪問することで、小林が復興していることを各界に示し、これまでの支援に感謝を示す意味があるという¹²。そのためにも今回の公演は、各地の公演による収入で、自分たちがためた費用で来たのだという¹³。

2 山田町の被災状況

岩手県下閉伊郡山田町は、岩手県東部海岸線の中央部に位置する。2011年3月の東日本大震災による被災状況は、2014年6月現在、山田町の死者・行方不明者は820人(岩手県5,814人、日本全体同年3月現在21,613人)、山田町の全半壊家屋は3,369棟で、山田町の家屋の46.7%が被害を受けた(岩手県では25,706棟、日本全体では400,101棟)¹⁴。

震災では、津波とその後の火災で市街地がほぼ壊滅状態となった。JR東日本の鉄道で盛岡から宮古経由釜石まで通じる山田線は、沿岸部の宮古―釜石間(55.4km)が不通のままである。復旧の総事業費は210億円と見込まれ、鉄道の移管問題で揺れている¹⁵。

3 大満舞踊団による山田町訪問

(1)大満舞踊団の山田町公演まで

大満舞踊団ではどのようにして山田町を公演地として選んだのであろうか。山田町での受け入れは、山田ロータリークラブが主体となっていた。山田ロータリークラブは、山田町で飲食店や工場を経営する人たちが加入しているが、今も仮設店舗で営業しているメンバーもいる。クラブでは、さまざまな復興へ向けた取り組みをおこなっており、被災1年後の2012年3月には、山田湾がみわたせる高台に「鎮魂と希望の鐘」をつくっている¹⁶。

今回の公演のきっかけは、東京浅草ロータリークラブ創立50周年の式典(2014年4月14日)で山田ロータリークラブと台湾南山ロータリークラブのメンバーが出会ったことから始まった。南山ロータリークラブは東日本大震災の翌月(2014年翌月4月)に創立し、台北に事務所をおいている。震災では交流協会を通じ、被災地へ義援金500万円をおくっている。譚凱元会長(2013-14年)は大満舞踊団の団長と知り合いであった。譚氏は浅草での式典で知り合った山田ロータリークラブの人に声をかけ、今回の公演が実現した。

(2)大満舞踊団の山田町公演

7月18日、大満舞踊団の山田町公演が山田町中央公民館で午後1時から行わ

れた。この建物は高台にあったので、津波や火災の被害を受けなかった。公民館は大小 2 つのホールをもつ文化会館である。大ホールは 700 名の観客を収容する能力がある。小ホールは中学校などの講堂のようで、1メートルほどの壇上と、その下の平面板に組み立て式の椅子を並べるホールである。大満舞踊団の希望により公演は小ホールで行われた。

受け入れの山田町では公演が金曜日だったので、人の集まりを心配していた。朝から町民へ公演のアナウンスを放送していた。結果的には立ち見ができるほどのいっぱいの人が集まった。毎日新聞の報道によると 200 人が来ていた¹⁷。

大満舞踊団の公演はほとんど言語による会話をおこなわないノンバーバルな舞踊劇でもある。歌をともなって踊り、会話を交わすわけではないが、ストーリーがある。それは日常の仕事でしりあった男女の恋が成就し結婚にいたるといふもので、これを舞踊で表現していく。物語の進行とあわせて舞台横では演技を解説する映像がながされていた。浅井恵倫による古いビデオも放映されていた。映像には小林村の被災状況も写され、小林村が土石流被害にあった集落であり、地震の被災地、山田町に応援にきたことを、それまで小林村の災害を知らなかった者にもわかるように編集されていた。

1 時間ほどの公演終了後、山田ロータリークラブから王民亮団長と出演者全員へ花束贈呈があった。その後、町民と出演者たちが握手と記念写真で交換会をおこなって終了した。

4 台湾からの支援

台湾からの義援金は、日本赤十字社をとおして被災地へ送られた。山田町では、2 つの保育園が再建され、新たに放課後児童クラブがつくられた。その他、役場をとおして被災者たちへ支援金もおくられた。

(1) 日台きずな保育園

社会福祉法人親和会の経営する日台きずな保育園は、震災前わかき保育園という名称だった。震災では、保育園の門が残るだけで、すべてが流される被害を受けた。当時 20 名ほどいた園児と保育士など職員全員が日頃避難訓練をしていた近くの寺、瑞然寺に避難し無事だった。しかし、建物すべてが流され、保育園経営を苦慮していたところへ台湾紅十字組織¹⁸から視察があり、義援金で保育園を再建できることになった。

保育園は高台へ移転し、新たな土地で 2013 年 10 月に再建した。落成式には台湾紅十字組織の者 30 名ほどが招かれた。再建にあたって台湾からの援助に感

謝して、名称を日台きずな保育園と変更した。また日本と台湾の旗を建物内部と運動場に常時掲げている。台湾からの支援で再建したことを記したプレートをつくっている。

保育園を経営する社会福祉法人親和会では2014年2月に、理事長など役員6名が台湾紅十字組織を訪問しお礼を述べた。しばらくは毎年訪問を続けたいとおもっているという。

(2)大沢保育園

大沢保育園は、寺院、南陽禅寺から続く土地がやや小高いところに位置しているが、海方向へいくにしたがい、土地が低くなっていた。震災では低い土地にあった施設に被害を受けた。同保育園前方に海が開け、住宅地だったというが、今は建物が流されてしまい、草が茂った平地となっている。

大沢保育園の再建には園舎の立て直しのほか、裏山と接している部分の崖の強度が問題となった。崩落防止の工事をしなければならないことがわかり、費用面で困惑していた。そこへ台湾紅十字組織とドイツの友好都市から義援金をもらうことができたので、園舎を再建することができた。保育園には台湾とドイツの支援によって再建したことを記すプレートが貼られている。落成式には台湾紅十字組織とドイツの支援者を招いて祝った。

(3)放課後児童クラブ

山田北小学校の校舎近くには、震災後、山田北小学校と豊間根小学校の児童が対象の、働く親が帰宅してくるのを待つための施設、放課後児童クラブができた。建物には、台湾赤十字組織からの義援金で建てられたことが書かれたプレートが貼られ、看板が立てられた。

5 おわりに：台湾からの支援と山田町の台湾意識の変化

台湾からの義援金で、山田町に新しい建物が建てられたときは、落成式に台湾紅十字組織の人たちも招かれている。台湾紅十字組織では、お返しに台湾人音楽家による演奏会を開いている¹⁹。こうした支援とそのお礼という交流をおすことによって、山田町の人々の台湾に対する関心が高まってきているといえよう。それゆえ、今回の大満舞踊団公演には、台湾からの支援に対しお礼を述べたくてやってきたという人たちもいた。

こうした支援に端を発した交流のなかで、すでにこれからの交流計画が具体化してきている団体もある。小林村の大満舞踊団受け入れをおこなった山田口

ロータリークラブでは、台湾南山ロータリークラブと、彼らを結びつけた浅草ロータリークラブと合同し、中学生に作文を募集し、優秀者数名を台湾へ派遣しようとする具体的な検討が始められている。こうした活動により、さらに家族や学校など台湾へ興味をもつ人が増加することが期待できる。

岩手県にも動きがある。現在、台北—岩手花巻空港でときどきチャーター便が飛んでいるが、この路線の定期便化を目指している。実現すれば北東北では唯一、台湾との定期便をもつ空港になる。定期便化への取り組みは、人々の台湾への意識を変える可能性がある。

被災地応援のためにやってきた小林村の大満舞踊団は、保育園再建などそれまで山田町におこなわれてきた台湾からの支援を土台に、さらに被災地と台湾の交流をすすめる方向へ進んでいることを示すひとつの例といえよう。これまで山田町の多くの人たちにとって、台湾は未知の地域でしかなかったが、個人レベルでも、組織レベルでも交流が始まっている。台湾からの支援を契機に、山田町の人々と台湾との新しい交流が築かれ始めている。

¹ 高雄県甲仙郷小林村は、2010 年末、高雄市甲仙区小林村となった[清水 2011 : 164]。

² Radio Taiwan International | News 7 月 8 日「小林村の舞踊団・18 日に日本の岩手で交流」より (<http://japanese.rti.org.tw/news/?recordId=7339>) 最終確認 2014 年 8 月 23 日

³ 地下深い岩盤から一気に崩れる「深層崩壊」は、2010 年 6 月 27 日に NHK が放映した NHK スペシャル「深層崩壊が日本を襲う」で注目された。「深層崩壊」という言葉と破壊力のすごさを日本中に知らせることになった (NHK スペシャル「深層崩壊が日本を襲う」

(<http://www.nhk.or.jp/special/detail/2010/0627/>) 2014 年 8 月 24 日閲覧

⁴ 毎日新聞 2014 年 8 月 9 日「台湾大被害から 5 年 特産梅で復興へ 先住民文化で団結」

⁵ 注 4 と同じ。

⁶ 注 4 と同じ。

⁷ 年代は浅井恵倫の動画資料を整理した宮岡(2005)のシラヤ、タイヴォワンの項目を参照。

⁸ 「梅の生産加工でコミュニティ復興——小林村の新たな故郷」(台湾光華雑誌 2013/11/06)

(http://www.taiwanpanorama.com/jp/show_issue.php?js=no&id=2013110211026j.txt&table=5&cur_page=1&distype=text) 最終確認 2014 年 8 月 25 日

⁹ 注 4 と同じ。

¹⁰ 日光小林の日光は、日本人から復興支援にと贈られてきたひまわりの種から名づけられた (毎日新聞 2014/8/9)。公演で観客に話された話によると、小林の日本語の音が表す数字にちなんで、5884 個のひまわりがおくられてきたという。

¹¹ 注 4 と同じ。

¹² 台北駐日経済文化代表処>台湾週報>2014 年第 28 週 7 月 8 日「高雄・小林村の「大満舞団」が 7 月 17 日に岩手県山田町でチャリティー公演」2014 年 7 月 27 日閲覧 公演は 7 月 18 日の間違い。(<http://www.roc-taiwan.org/content.asp?mp=202&Cultem=525370>)

¹³ 注 4 と同じ。

¹⁴ これらの数字は山田町公式サイト、岩手県庁公式サイト、総務省消防庁公式サイトより
・山田町役場>3.11 東日本大震災・大津波に関する情報>公表資料 6 月 6 日
(http://www.town.yamada.iwate.jp/saitai_index.html) 2014 年 8 月 25 日閲覧

-
- ・岩手県庁>「いわて復興だより Web」>岩手県の被害状況 2014年8月1日第68号
(<http://iwate-fukkoudayori.com/fukko/758.html>) 2014年8月25日閲覧
 - ・総務省消防庁>東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)被害報 平成26年(2014年)3月7日第149報 (<http://www.fdma.go.jp/bn/higaihou.html>) 2014年8月25日閲覧
 - ¹⁵ 「JR山田線三鉄移管「有力」で一致」(河北新報 Online News2014年8月8日) 2014年8月27日閲覧(http://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201408/20140808_31015.html)
 - ¹⁶ 岩手日報 2012年1月7日「山田町に「鎮魂の鐘」建設へ」 2014年9月5日閲覧
(<http://www.iwate-np.co.jp/311shinsai/y2012/m01/sh1201074.html>)
 - ¹⁷ 毎日新聞 注4と同じ
毎日新聞 2014「台湾大水害から5年 特産梅で復興へ 先住民文化で団結」8月9日
 - ¹⁸ 台湾では「中華民国紅十字会」という名称を使用しているが、被災地では、「台湾紅十字組織」とプレートなどに表記しているので、「灣」を「湾」に変えた名称を使用した。
 - ¹⁹ 大沢保育園の落成式は2013年3月21日だった。同日台湾紅十字組織に台湾の音楽演奏家たちが同行し「大槌・山田ミュージック フェスティバル」を山田町中央公民館で開催した。これに保育園関係者が、招待されたという。

参考文献

小川正恭・黄智慧・石村明子

2010「台湾原住民族と八八水害：「びんろう」による被災情報交換と資料」(日本順益台湾原住民研究会編『台湾原住民研究』14) 80-129

2012「台湾原住民族と八八水害(続)」(日本順益台湾原住民研究会編『台湾原住民研究』16) 69-122

簡文敏(松岡格訳)

2010「小林平埔族文化と災害後の再建」(日本順益台湾原住民研究会編『台湾原住民研究』14) 59-79

清水純

2011「再出発する二つの小林村：八八水害からの復興」(日本順益台湾原住民研究会編『台湾原住民研究』14) 163-172

2014『画像が語る台湾原住民の歴史と文化—鳥居龍蔵・浅井恵倫撮影写真の探求』風響社

毎日新聞

2014「台湾大水害から5年特産梅で復興へ先住民文化で団結」
2014年8月9日

馬淵東一

1974『馬淵東一著作集』第2巻 世界思想社

宮岡真央子

2005「浅井資料動画フィルム—概要と目録」(浅井・小川未整理資料の分類・整理・研究プロジェクト 代表 土田滋『小川尚義 浅井恵倫台湾資料研究』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)

参照ウェブサイト

岩手県庁公式サイト>「いわて復興だより Web」>岩手県の被害状況 2014年8月1日第68号) (<http://iwate-fukkodayori.com/fukko/758.html>) 2014年8月25日閲覧

岩手日報 2012年1月7日「山田町に「鎮魂の鐘」建設へ」2014年9月5日閲覧(<http://www.iwate-np.co.jp/311shinsai/y2012/m01/sh1201074.html>)

河北新報 Online News 2014年8月8日「JR 山田線三鉄移管「有力」で一致」2014年8月27日閲覧
(http://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201408/20140808_31015.html)

総務省消防庁公式サイト>東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)被害報 2011年3月7日第149報 (<http://www.fdma.go.jp/bn/higaihou.html>) 2014年8月25日閲覧

台湾光華雜誌 2013/11/06「梅の生産加工でコミュニティ復興——小林村の新たな故郷」
(http://www.taiwanpanorama.com/jp/show_issue.php?js=no&id=2013110211026j.txt&table=5&cur_page=1&distype=text) 最終確認 2014年8月25日

台北駐日経済文化代表処>台湾週報>2014年第28週 7月8日「高雄・小林村の「大満舞団」が7月17日に岩手県山田町でチャリティー公演」2014年7月27日閲覧
(<http://www.roc-taiwan.org/content.asp?mp=202&CuItem=525370>)

山田町役場公式サイト>3.11 東日本大震災・大津波に関する情報>公表資料 6月6日
(http://www.town.yamada.iwate.jp/saitai_index.html) 2014年8月25日閲覧

林清財(編訳三尾裕子、陳麗君) 2011「特別寄稿学者と災害 台湾小林平埔原住民族文化重建協会の試み」(Field+ 2011 07 no.6)
<http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/74345> (東京外国語大学学術成果コレクション) 2014年8月25日閲覧

NHK スペシャル「深層崩壊が日本を襲う」
(<http://www.nhk.or.jp/special/detail/2010/0627/>) 2014年8月24日閲覧

Radio Taiwan International | News 7月8日「小林村の舞踊団、18日に日本の岩手で交流」(<http://japanese.rti.org.tw/news/?recordId=7339>)最終確認 2014年8月23日